

# 生き方リサーチ



豊かだけど不安な中で

■増える「自分専用」サービス  
いま、「自分専用」のサービスが増えています。サービス開始後、5カ月で100万契約を突破したドコモの「iコンシェル」は、生活エリアや趣味嗜好に合わせ、交通情報や天気、本日のお買い得品といった「あなただけのための」情報が配信されるものです。また広告も、テレビを通じて不特定多数に発信するこれまでの手法に代わり、ユーザーがウェブ検索で利用したキーワードに基づいて関連広告を出すような、個人にターゲットを絞った手法がリードするようになってきました。HRIの2007年度の調査でも、未来の科学技術への期待として、テラーメイド医療（個人差に合わせた最適な医療）の実現を望む声がありました。人々のライフスタイルも志向も細分化していく中、テクノロジの進展も後押ししながら、「あなた専用」サービスはこれからも増えていきそうです。

■「共用」という知恵も  
一方、「専用」の反対のコンセプトである「共用」サービスも、最近では支持を集めています。大手メーカーも参入を始めたカーシェアリング、高級ブランドのバッグ・アクセサリー、子ども服やベビー用品のレンタルサービスが好調です。モノを所有するのではなく、必要なときに貸し借りするの、リースナブルな知恵となってきました。他の人と共同で使うモノと



■日本家屋で共同生活  
東京の古い下町の町並みを残す谷中にある、築100年以上の日本家屋「市田邸」写真左では、学生たちが共同生活を送っています。元の住宅の所有者から、NPO法人「たいとう歴史都市研究会」が借り受け、学生たちがここに住みながら、建物の日常的な維持管理も行っています。学生時代、ここで暮らしていた人たちから話を聞きました。住居のメンテナンスや寒暖を凌ぐ工夫等、伝統的な住まいの知恵に学びながら、住

## 見直される「共にする」価値

共同生活を送っています。元の住宅の所有者から、NPO法人「たいとう歴史都市研究会」が借り受け、学生たちがここに住みながら、建物の日常的な維持管理も行っています。学生時代、ここで暮らしていた人たちから話を聞きました。住居のメンテナンスや寒暖を凌ぐ工夫等、伝統的な住まいの知恵に学びながら、住

人同士の人間関係を築いていく中でさまざまなものを得られたと言います。建物は基本的に、明治時代に建てられたときのつくりと変わっておらず、現在も住人の私室と私室を隔てているのは、壁ではなく、襖一枚だけです。そのため、音楽を流すとすぐに隣の部屋に聞こえてしまいが、部屋から漏れる音楽を耳にして襖の向こうから「あ、その曲良いね。音量、もっと大きくして」と声がかかることもよくあったそうです。普通のマンションやアパートも「共同」住宅ではありませんが、「個人」の生活を尊重

することがマナーとされている。二コニコ動画が「YouTube」等の他の動画投稿サイトと違うのは、動画を見た人たちが自由にコメントし、それを表示する機能がある点です。このサイトで動画を再生し、いろんな人のコメントが飛び交っている様子を見てみると、二人でいても、仲間と一緒にテレビや映画を見ながらワイワイしゃべっているような楽しさに浸ることができるのです。オンデマンド放送などの個別サービスも成熟しつつある中、「誰かと一緒に同じものを見る」サービスが支持を集めているのも興味深い現象です。

「アンドロイド」搭載ケータイが発売されましたが、「アンドロイド」も無償で携帯電話の開発が行えるプラットフォームで、各メーカーやソフト開発者がイノベーションを加えることができる仕組みです。また、開発コードをオープンにして世界各國の人が改良を重ねるソフト・Linuxを使い、ネットと連動する画期的な家電を開発している国内ベンチャーもあります。このようにビジネスの世界でも、囲ってしまうのではなくオープンにすることで、新しいダイナミズムをつくらうとする動きが見られます。

■オープンから生まれる動き  
「市田邸」の共有の洗面所で、「くらしの約束」という貼り紙を見つけた。写真左。共同生活のルールのほか、地域の人たちと積極的な交流を心がけることが記されています。また、「市田邸」の1階のお座敷は、お茶会や演劇、写真展、講習会など、地域の芸術文化活動の拠点としても広く活用されています。建物を地域にオープンにすることで、ここで暮らす学生たちも、地域の人から庭木の手入れについてアドバイスをもらったり、家具を譲ってもらったり等、温かい協力関係を築けているようです。

門を閉めてしまうのではなく、開放することで生まれるインタラクティブに注目するというのは、最先端企業のビジネス・モデルでもありません。アップルのiPhoneやiPod向けのアプリがダウンロードできるサイト「App Store」は、5万本を超えるアプリがそろっていますが、この盛り上がり背景には、アプリ開発にプロだけでなくアマチュアも自由に参加できる垣根の低さがあります。この夏、グーグルの

長い歴史を振り返ってみると、人間は小さすぎもせず、大きすぎもしない規模の集団の中で、相互関係を築きながら社会性を発達させてきた生き物です。「自分だけ」のサービスは快適ではありませんが、どこか味気なく感じるといっても私たちの本音です。今回見てきたように、誰かと何かを共にしたり、分かち合ったり、交流したりということもまた、大きな価値があります。個人サービスの「快適さと物足りなさ」、集団のダイナミズムの中で生きる「わずらわしさと豊かさ」を往き来しながら、適切な着地点を見極めていくことが大事になりそうです。（オムロン・ヒューマンネットワーク 澤田美奈子）

### ◆市田邸「くらしの約束」

1. 市田邸の歴史と、活用経緯、活用計画を十分理解する。
2. 市田邸の活用促進、たい歴の活動に、可能な限り参加をする。
3. 基本はあいさつ。快適な生活を心がける（ご近所、居住者間で在宅、不在を伝えあう）
4. 町会行事、防災訓練には必ず参加する。
5. 火の元注意、禁煙。防火バケツには常時清潔な水を入れておく。自主定期的に避難訓練を行う。
6. 戸締り注意、防犯ベルの確認を定期的に行う。
7. ゴミ・掃除当番は責任をもつ。居間は常に清潔に、私物は置かない。
8. 部外者の見学、立ち入りの際には、居住者・事務局・市田邸代表に、目的を伝え了解を得る。
9. 市田邸部会者で宿泊可能なのは原則親類関係のみ。事前に予定を他の居住者に伝え、常に居住者が同行する。
10. 外泊の場合は、同居人に伝える。